

補足説明「データフォーマットエディタ」の設定例 Rev.C

第1章 はじめに

本書について

本書はユーザーズガイドの「データフォーマットエディタ」について例示し、補足説明する資料です。

対象機種

Xenon 1900、Hyperion 1300g、IT4206(4206g)、3800g

本書の見方と設定方法

各ページに、データの出力例を記載しています。行いたい設定と同等の例を確認して下さい。次のような表があります。

【読み取る設定バーコードの順番】

設定用バーコード	意味
Enter Data Format	データフォーマットの設定開始
0	フォーマット番号を設定。"0"=基準のフォーマット
099	インターフェースを設定。"099"=すべてのインターフェース。
99	フォーマット適用コード種別を設定。 "99"=全種類のバーコード。例："73"にすると QR Code。
9999	データフォーマットを適用するバーコードの桁数を設定。 "9999"=すべての桁数で適用。例：15 桁のみ適用するなら"0015"
F5	移動コマンド。コマンド指定方法"F5nn"
03	F5 コマンドの nn 部。文字数を指定。"03"=カーソルを 3 文字移動。
F1	送信コマンド。現在の位置から xx キーの後に続く全てのデータを出力する。コマンド指定方法"F1xx"
00	F1 コマンドの xx 部。Hex を指定。指定がない場合は"00"。
Save	設定終了

この例では、巻末にある「設定バーコード」から Enter Data Format のメニューを読み取り、プログラミングチャート（英数メニュー）から 0099999999F503F100（赤枠部）と1つずつ順番に読み取り、最後に Save(保存して終了)を読み取ります。このように、他の例も順番に設定バーコードを読み取って下さい。

途中で間違った場合は Discard（設定中止）を読み取り、最初からやりなおします。

◇お客様が行いたい設定にするには

設定したい桁数やキャラクタが異なる場合は、その部分の値を設定したい値に置き換えて、設定メニューを読み取って下さい。上記は読み取りデータの1~3桁目を抜かして4文字目から出力する例です。1~5桁目を抜かして6桁目から出力するなら、「03」（青枠部）を「05」と読み取ります。

◇オプション設定

データフォーマットを設定したら、巻末のオプション設定を任意で設定して下さい。

第 2 章 設定の事例集

【例 1】データの途中から最後までを出力する

元データ	123ABCDefg
編集設定後の出力データ	ABCDefg
編集の内容	3文字移動し、そこから（4文字から）全てのデータを出力する。

【読み取る設定バーコードの順番】

設定用バーコード	意味
Enter Data Format	データフォーマットの設定開始
0	フォーマット番号を設定。"0"=基準のフォーマット
099	インターフェースを設定。"099"=すべてのインターフェース。
99	フォーマット適用コード種別を設定。 "99"=全種類のバーコード。例："73"にすると QR Code。
9999	データフォーマットを適用するバーコードの桁数を設定。 "9999"=すべての桁数で適用。例：15桁のみ適用するなら"0015"
F5	移動コマンド。コマンド指定方法"F5nn"
03	F5 コマンドの nn 部。文字数を指定。"03"=カーソルを 3 文字移動。
F1	送信コマンド。現在の位置から xx キーの後に続く全てのデータを出力する。コマンド指定方法"F1xx"
00	F1 コマンドの xx 部。Hex を指定。指定がない場合は"00"。
Save	設定終了

バーコードの種類を表す値はユーザズガイド巻末の「シンボルチャート」を参照して下さい。例えば Code39 の行には「0x62」と表示しています。Code39 の値は 62 となります。QR Code の行には「0x73」と表示しています。QR Code の値は 73 となります。

【例2】データの先頭から途中までを出力する

元データ	123ABCDefg
編集設定後の出力データ	123ABCD
編集の内容	最後の3文字を除く全ての文字を出力する。

【読み取る設定バーコードの順番】

設定用バーコード	意味
Enter Data Format	データフォーマットの設定開始
0	フォーマット番号を設定。"0"=基準のフォーマット
099	インターフェースを設定。"099"=すべてのインターフェース。
99	フォーマット適用コード種別を設定。 "99"=全種類のバーコード。例："73"にすると QR Code。
9999	データフォーマットを適用するバーコードの桁数を設定。 "9999"=すべての桁数で適用。例：15桁のみ適用するなら"0015"
E9	送信コマンド。現在のカーソル位置から最後の nn（文字数）を除いた全ての文字を送信する。コマンド指定方法"E9nn"
03	E9 コマンドの nn 部。文字数を指定。
Save	設定終了

バーコードの種類を表す値はユーザズガイド巻末の「シンボルチャート」を参照して下さい。例えば Code39 の行には「0x62」と表示しています。Code39 の値は 62 となります。QR Code の行には「0x73」と表示しています。QR Code の値は 73 となります。

【例3】データの間を出力する

元データ	123ABCDefg
編集設定後の出力データ	ABCD
編集の内容	3文字目の後に移動し、4文字分を出力する。

【読み取る設定バーコードの順番】

設定用バーコード	意味
Enter Data Format	データフォーマットの設定開始
0	フォーマット番号を設定。"0"=基準のフォーマット
099	インターフェースを設定。"099"=すべてのインターフェース。
99	フォーマット適用コード種別を設定。 "99"=全種類のバーコード。例："73"にすると QR Code。
9999	データフォーマットを適用するバーコードの桁数を設定。 "9999"=すべての桁数で適用。例：15桁のみ適用するなら"0015"
F5	移動コマンド。コマンド指定方法"F5nn"
03	F5 コマンドの nn 部。文字数を指定。"03"=カーソルを 3 文字移動。
F2	送信コマンド。現在のカーソル位置から xx キーの後に続く nn (文字数) を送信する。コマンド指定方法"F2nnxx"
04	F2 コマンドの nn 部。文字数を指定。"04"=4 文字出力。
00	F2 コマンドの xx 部。Hex を指定。指定がない場合は"00"。
Save	設定終了

バーコードの種類を表す値はユーザーズガイド巻末の「シンボルチャート」を参照して下さい。例えば Code39 の行には「0x62」と表示しています。Code39 の値は 62 となります。QR Code の行には「0x73」と表示しています。QR Code の値は 73 となります。

【例4】 データの間にキャラクタ（およびファンクションキー）を挿入する】

元データ	123ABCDefg
編集設定後の出力データ	123（TAB キー）ABCDefg
編集の内容	3文字出力した後、TAB キーを1回挿入。そこから（4文字目から）全ての文字を出力する。

【読み取る設定バーコードの順番】

設定用バーコード	意味
Enter Data Format	データフォーマットの設定開始
0	フォーマット番号を設定。"0"=基準のフォーマット
099	インターフェースを設定。"099"=すべてのインターフェース。
99	フォーマット適用コード種別を設定。 "99"=全種類のバーコード。例："73"にすると QR Code。
9999	データフォーマットを適用するバーコードの桁数を設定。 "9999"=すべての桁数で適用。例：15桁のみ適用するなら"0015"
F2	送信コマンド。現在のカーソル位置から xx キーの後に続く nn(文字数)を送信する。コマンド指定方法"F2nnxx"
03	F2 コマンドの nn 部。文字数を指定。"03"=3文字出力。
00	F2 コマンドの xx 部。Hex を指定。指定がない場合は"00"。
F4	送信コマンド。現在のカーソル位置はそのまま xx キーを nn 回を送信する。コマンド指定方法"F4xxnn"
09	F4 コマンドの xx 部。Hex を指定。"09"=TAB
01	F4 コマンドの nn 部。回数を指定。"01"=1回出力。
F1	送信コマンド。現在の位置から xx キーの後に続く全てのデータを出力する。コマンド指定方法"F1xx"
00	F1 コマンドの xx 部。Hex を指定。指定がない場合は"00"。
Save	設定終了

バーコードの種類を表す値はユーザーズガイド巻末の「シンボルチャート」を参照して下さい。例えば Code39 の行には「0x62」と表示しています。Code39 の値は 62 となります。QR Code の行には「0x73」と表示しています。QR Code の値は 73 となります。

TAB などのファンクションキーの HEX 値(xx)については、ユーザーズガイド「サポートされているインターフェースキー」を参照して求めます(本書巻末)。文字キャラクタの HEX 値(xx)はユーザーズガイド「付録 アスキー換算チャート」から求めます。

【例5】指定した文字を無効にして（削除して）出力する

元データ	12345-ABCD、123-ABCD-890 など不特定位置に「-」がある
編集設定後の出力データ	12345ABCD、123ABCDEF、・・・
編集の内容	「-」を無効にする（削除する）。

【読み取る設定バーコードの順番】

設定用バーコード	意味
Enter Data Format	データフォーマットの設定開始
0	フォーマット番号を設定。"0"=基準のフォーマット
099	インターフェースを設定。"099"=すべてのインターフェース
99	フォーマット適用コード種別を設定。 "99"=全種類のバーコード。例："73"にすると QR Code。
9999	データフォーマットを適用するバーコードの桁数を設定。 "9999"=すべての桁数で適用。例：15 桁のみ適用するなら"0015"
F3	送信コマンド。現在のカーソル位置から ss(検索/送信)まで送信する。カーソルは、「xx」キーまたはファンクションコードに続く「ss」キャラクタで止まる。コマンド指定方法"F3ssxx"
2D	F3 コマンドの ss 部。検索キャラクタを指定。"2D"="-"。
00	F3 コマンドの xx 部。Hex を指定。指定がない場合は"00"。
F8	検索コマンド。現在のカーソル位置より前方にある xx を検索し、カーソルは xx に移動する。コマンド指定方法"F8xx"
2D	F8 コマンドの xx 部。Hex を指定。"2D"="-"
FB	無効コマンド。現在のカーソル位置から最大 15 文字を無効にする。 コマンド指定方法"FBnnxyy..zz"
01	FB コマンドの nn 部。無効にする文字数を指定。"01"=1 文字。
2D	FB コマンドの xx 部。無効にする文字を指定。"25"="-"
E9	送信コマンド。現在のカーソル位置から最後の nn（文字数）を除いた全ての文字を送信する。コマンド指定方法"E9nn"
00	E9 コマンドの nn 部。文字数を指定。
Save	設定終了

バーコードの種類を表す値はユーザズガイド巻末の「シンボルチャート」を参照して下さい。例えば Code39 の行には「0x62」と表示しています。Code39 の値は 62 となります。QR Code の行には「0x73」と表示しています。QR Code の値は 73 となります。

文字キャラクタの HEX 値(xx)はユーザズガイド「付録 アスキー換算チャート」から求めます。

【例6】指定した文字を他の文字やファンクションキーに置換して出力する

元データ	123-ABCD-abcd
編集設定後の出力データ	123 TAB ABCD TAB abcd
編集の内容	「-」を Tab キーに置換する。

【読み取る設定バーコードの順番】

設定用バーコード	意味
Enter Data Format	データフォーマットの設定開始
0	フォーマット番号を設定。"0"=基準のフォーマット
099	インターフェースを設定。"099"=全てのインターフェース。
99	フォーマット適用コード種別を設定。 "99"=全種類のバーコード。例："73"にすると QR Code。
9999	データフォーマットを適用するバーコードの桁数を設定。 "9999"=すべての桁数で適用。例：15 桁のみ適用するなら"0015"
E4	置換コマンド。コマンド指定方法"E4nnxx ₁ xx ₂ yy ₁ yy ₂ ..."
02	E4 コマンドの nn 部。置換前と置換後のキャラクタの合計数。 キャラクタは xx ₁ と xx ₂ の 2 つとなるため値は"02"。
2D	E4 コマンドの xx ₁ 部。置換前のキャラクタを指定。"2D"="-"。
09	E4 コマンドの xx ₂ 部。置換後のキャラクタを指定。"09"="HT"。 HT はインターフェースキーとしてサポートされ、TAB キーとして出力します。
F1	送信コマンド。現在の位置から xx キーの後に続く全てのデータを出力する。コマンド指定方法"F1xx"
00	F1 コマンドの xx 部。Hex を指定。指定がない場合は"00"。
Save	設定終了

バーコードの種類を表す値はユーザーズガイド巻末の「シンボルチャート」を参照して下さい。例えば Code39 の行には「0x62」と表示しています。Code39 の値は 62 となります。QR Code の行には「0x73」と表示しています。QR Code の値は 73 となります。

文字キャラクタの HEX 値(xx)はユーザーズガイド「付録 アスキー換算チャート」から求めます。

【例7】文字の順番を入れ替える。また、ファンクションキーを挿入して出力する

元データ	1234ABCDefgh
編集設定後の出力データ	ABCD TAB efgh TAB 1234 ENTER
編集の内容	文字の順番を入れ替えて、TAB キーを挿入する。 データの最後に ENTER キーを出力する

【読み取る設定バーコードの順番】

設定用バーコード	意味
Enter Data Format	データフォーマットの設定開始
0	フォーマット番号を設定。"0"=基準のフォーマット
099	インターフェースを設定。"099"=全てのインターフェース。
99	フォーマット適用コード種別を設定。 "99"=全種類のバーコード。例："73"にすると QR Code。
9999	データフォーマットを適用するバーコードの桁数を設定。 "9999"=すべての桁数で適用。例：15 桁のみ適用するなら"0015"
F5	移動コマンド。コマンド指定方法"F5nn"
04	F5 コマンドの nn 部。文字数を指定。"04"=4 文字進める。 出力位置は 4 文字進んで「A」となります。
F2	送信コマンド。コマンド指定方法"F2nnxx"
04	F2 コマンドの nn 部。文字数を指定。"04"=4 文字出力。 「ABCD」を出力します。
09	F2 コマンドの xx 部。HEX を指定。"09"="HT"。 HT はインターフェースキーとしてサポートされ、TAB キーとして出力します。
F1	送信コマンド。コマンド指定方法"F1xx"
09	F1 コマンドの xx 部。Hex を指定。"09"="HT"。 出力位置は「e」です。「efgh」（残りを全て）を出力します。
F7	移動コマンド。カーソルをデータの先頭に移動します。 出力位置はデータ先頭の「1」に戻ります。
F2	送信コマンド。コマンド指定方法"F2nnxx"
04	F2 コマンドの nn 部。文字数を指定。"04"=4 文字出力。 「1234」を出力します。
0D	F2 コマンドの xx 部。HEX を指定。"0D"="CR"。 CR はインターフェースキーとしてサポートされ、ENTER キーとして出力します。
Save	設定終了

文字キャラクタの HEX 値(xx)はユーザズガイド「付録アスキー換算チャート」から求めます。

【例 8】 指定した文字の前までを出力する

元データ	1234-ABCD、56-EFGHIJ など不特定位置に“-”がある
編集設定後の出力データ	1234、56
編集の内容	“-”（ハイフン）よりも前のデータを出力する。

【読み取る設定バーコードの順番】

設定用バーコード	意味
Enter Data Format	データフォーマットの設定開始
0	フォーマット番号を設定。"0"=基準のフォーマット
099	インターフェースを設定。"099"=全てのインターフェース。
99	フォーマット適用コード種別を設定。 "99"=全種類のバーコード。例："73"にすると QR Code。
9999	データフォーマットを適用するバーコードの桁数を設定。 "9999"=すべての桁数で適用。例：15 桁のみ適用するなら"0015"
F3	送信コマンド。現在のカーソル位置から、「ss」キャラクタ（検索/送信）の前までを送信します。カーソルは、「xx」キーまたはファンクションコードに続く「ss」キャラクタで止まります。 コマンド指定方法"F3ssxx"
2D	F3 コマンドの ss 部。Hex を指定。"2D"="-"（ハイフン）。
00	F3 コマンドの xx 部。指定がない場合は"00"。 参考: ここで Hex の"0D"を指定すると ASCII の"CR"が設定されます。CR はインターフェースキーとしてサポートされ、Enter キーが出力されます。
Save	設定終了

バーコードの種類を表す値はユーザーズガイド巻末の「シンボルチャート」を参照して下さい。例えば Code39 の行には「0x62」と表示しています。Code39 の値は 62 となります。QR Code の行には「0x73」と表示しています。QR Code の値は 73 となります。

文字キャラクタの HEX 値(xx)はユーザーズガイド「付録 アスキー換算チャート」から求めます。

【例 9】 指定した文字の後を出力する

元データ	1234-ABCD、56-EFGHIJ など不特定位置に“-”がある
編集設定後の出力データ	ABCD、EFGHIJ
編集の内容	“-”（ハイフン）よりも後のデータを出力する。

【読み取る設定バーコードの順番】

設定用バーコード	意味
Enter Data Format	データフォーマットの設定開始
0	フォーマット番号を設定。"0"=基準のフォーマット
099	インターフェースを設定。"099"=全てのインターフェース。
99	フォーマット適用コード種別を設定。 "99"=全種類のバーコード。例："73"にすると QR Code。
9999	データフォーマットを適用するバーコードの桁数を設定。 "9999"=すべての桁数で適用。例：15 桁のみ適用するなら"0015"
F8	検索コマンド。現在のカーソル位置より前方にある「xx」キャラクターを検索し、カーソルは「xx」キャラクターに移動します。 コマンド指定方法"F8xx"
2D	F8 コマンドの xx 部。Hex を指定。"2D"="-"（ハイフン）。
FE	その他のコマンド。現在のカーソル位置のキャラクターをキャラクター「xx」と比較します。キャラクターが同じ場合は、カーソルを 1 つ進めます。コマンド指定方法"FExx"
2D	FE コマンドの xx 部。Hex を指定。"2D"="-"（ハイフン）。
F1	送信コマンド。現在の位置から xx キーの後に続く全てのデータを出力する。コマンド指定方法"F1xx"
00	F1 コマンドの xx 部。Hex を指定。指定がない場合は"00"。 参考: ここで Hex の"0D"を指定すると ASCII の"CR"が設定されます。CR はインターフェースキーとしてサポートされ、Enter キーが出力されます。
Save	設定終了

バーコードの種類を表す値はユーザーズガイド巻末の「シンボルチャート」を参照して下さい。例えば Code39 の行には「0x62」と表示しています。Code39 の値は 62 となります。QR Code の行には「0x73」と表示しています。QR Code の値は 73 となります。

文字キャラクターの HEX 値(xx)はユーザーズガイド「付録 アスキー換算チャート」から求めます。

【例 10】 指定した文字のときのみ読み取る 異なる場合はエラーブザーを鳴らす

元データ	バーコード種別は JAN13、データは 4512345678906
編集設定後の出力データ	4512345678906
編集の内容	JAN13 かつ 4512345678906 か比較する

【読み取る設定バーコードの順番】

設定用バーコード	意味
Enter Data Format	データフォーマットの設定開始
0	フォーマット番号を設定。"0"=基準のフォーマット
099	インターフェースを設定。"099"=全てのインターフェース。
64	フォーマット適用コード種別を設定。 "64"=JAN13。例："99"にすると全種類のバーコード。
0013	データフォーマットを適用するバーコードの桁数を設定。 "9999"=すべての桁数で適用。例：13 桁のみ適用するなら"0013"
FE34FE35FE31FE32 FE33FE34FE35FE36 FE37FE38FE39FE30 FE36	その他のコマンド。キャラクタの比較。コマンド指定方法"FExx" 例："FE34"=Hex の 34(数字の 4)があるか比較する。同じであれば次に進む。コマンドを繰り返すことで比較し続けます。 4512345678906 の Hex は 34 35 31 32 33 34 35 36 37 38 39 30 36 です。
F7	移動コマンド。先頭に戻る。
F1	送信コマンド。現在の位置から xx キーの後に続く全てのデータ を出力する。コマンド指定方法"F1xx"
00	F1 コマンドの xx 部。Hex を指定。指定がない場合は"00"。
Save	設定終了
データフォーマット オン 要求あり	指定した文字と同じなら読み取り、異なる場合はエラーブザーを 鳴らす。

バーコードの種類を表す値はユーザズガイド巻末の「シンボルチャート」を参照して下さい。例えば JAN13(EAN-13)の行には「0x64」と表示しています。JAN13(EAN-13)の値は 64 となります。QR Code の行には「0x73」と表示しています。QR Code の値は 73 となります。

文字キャラクタの HEX 値(xx)はユーザズガイド「付録 アスキー換算チャート」から求めます。

第3章 設定バーコード



Enter Data Format(データフォーマット設定開始)

プログラミングチャート(英数メニュー)



0



2



4



6



8



A



C



E



Save(保存して終了)



1



3



5



7



9



B



D



F



Discard(設定中止)

(次のページにオプション設定があります)

オプション設定

◇条件と要求

次のオプションを1つ選択します。

「要求なし」はデータフォーマットで設定していないデータも読み取ります。例えばデータフォーマットでバーコードの種類をCode39に設定したとき、JANも読み取ります。Code39だけがデータ編集され、JANはそのまま出力します。

「要求あり」はデータフォーマットで設定した内容に一致していないバーコードはエラーとなり、読み取られません。例えばデータフォーマットでバーコードの種類をCode39に設定したとき、JANは読み取られません。また、エラーブザーが鳴ります。

「プレフィックス・サフィックスあり」はプレフィックス・サフィックスを出力します。Enter（改行）などを設定している場合はありを選択します。

「プレフィックス・サフィックスなし」はプレフィックス・サフィックスを出力しません。



データフォーマット オン
要求なし

プレフィックス・サフィックスなし
(1900、1300gのみ対応)



データフォーマット オン
要求あり

プレフィックス・サフィックスなし
(1900、1300gのみ対応)



*データフォーマット オン
要求なし

プレフィックス・サフィックスあり(注)



データフォーマット オン
要求あり

プレフィックス・サフィックスあり(注)

(注) IT4206、3800g はプレフィックス・サフィックスなしです。データフォーマットの設定の中でプレフィックス・サフィックスに相当するキャラクタを設定して下さい。例えば、サフィックスに Enter(改行、CR)が必要ななら、ほとんどの例で最後が「・・・F100」となっていますので、この部分を「・・・F10D」と設定して下さい。

◇削除と禁止



Clear All Data Format
全データフォーマットを削除

データフォーマットの設定を完全に削除するには、このメニューを読み取って下さい。



Data Formatter Off
データフォーマット 禁止

データフォーマットの設定を無効にします。設定はスキャナに保存されています。上記「条件と要求」のオプションを読み取ると、設定は復帰します。